

株主の皆さまへ

第41期 事業報告書

平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日

株主メモ

決算期	3月末日
基準日	3月末日
	その他必要がある時は、あらかじめ公告のうえ、基準日を設定いたします。
利益配当金受領株主確定日	3月末日
中間配当金受領株主確定日	9月末日
名義書換代理人	UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	大阪市中央区伏見町3丁目6番3号(〒541-8502) UFJ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部 電話(06)6229-3011(代表)
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
1単元の株式数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
貸借対照及び損益計算書掲載のホームページURL	http://www.asahipretec.com/ir/notification



アサヒプリテック株式会社
〒650-0001 神戸市中央区加納町4-4-17 ニッセイ三宮ビル
TEL.(078)333-5600(代) FAX.(078)333-5681 <http://www.asahipretec.com/>

 アサヒプリテック株式会社



古紙配合率100%再生紙を使用しています



大豆油インキ使用

株主の皆さまへ

平素は格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

従来、株主の皆さまには、速報性を重視した「決算のご報告」を中間期及び通期決算時にお届けしておりましたが、社会的に情報ネットワーク環境が向上する中、「決算のご報告」に代えまして、より情報内容を充実させた「事業報告書」を年一回お届けすることといたしました。

第41期(平成16年3月期)は、貴金属リサイクル事業において、パラジウム価格の下落の影響で減収にはなりましたが、シェア拡大や新規顧客の開拓等懸命の営業努力を重ねた結果、銀を除く全ての貴金属・希少金属において回収量を伸ばしました。IT分野をはじめとする新素材の回収にも顕著な進展が見られました。一方、環境保全事業では廃試薬等の無害化処理事業や連結子会社の貢献により連結売上高が前期を上回りました。利益面では、計画を上回る回収量・処理量の増加に加え、販管費をはじめとするあらゆる経費の節減に努めた結果、連結経常利益は前期を上回り、10億円強の連結当期純利益を確保することができました。

その結果、安定配当の考え方から、期末配当金を1株当たり13円とさせていただきます。6月17日に開催されました定時株主総会にてご承認をいただきましたので、ご報告申し上げます。これにより、中間配当金13円と合わせた年間配当金は、前期と同じ26円となります。

第42期(平成17年3月期)は、第3次中期経営計画(3ヵ年)の2年目に当たり、貴金属リサイクル事業の収益性のさらなる追求と環境保全事業の拡大を目指し、アサヒブリテック・グループが一丸となって目標達成に邁進する所存ですので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以下、当社の経営方針および今期業績について概要をご説明いたします。



代表取締役社長

寺山 満春

(1) 経営の基本方針

当社は「社会的貢献」「企業の永続」「人間尊重」を経営理念として、安定と成長の両立により企業価値を継続的に高める経営を実践いたします。

昭和27年の創業以来、「貴金属・希少金属資源のリサイクル」および「産業廃棄物の無害化」の両事業において、事業環境が激しく変化する中、新たな分野での事業開拓等により、着実に成長を遂げてまいりました。今後とも、すべてのステークホルダーとの関係を大切にしつつ、21世紀の循環型社会形成に幅広く貢献することを通して事業の発展を続けていきたいと考えております。

(2) 利益配分について

当社は株主に対する安定配当を基本方針としております。一方、成長分野への新規事業開発に備えるため内部留保の充実に努めることも重要と考えております。

(3) 中長期の経営戦略について

当社は昨年、平成15年4月から平成18年3月までの3ヵ年計画である第3次中期経営計画を策定いたしました。今後も、本計画にもとづき、貴金属リサイクル事業領域において収益力の強化と一層のシェア拡大に取り組むと同時に、環境保全事業領域における新規有望分野への取り組みの強化を図るこ

とにより、今後の持続的な成長の基盤を確立します。

また、第3次中期経営計画では、その最終年度である平成17年度において連結ベースで売上高500億円、売上高営業利益率7.5%を目標と位置づけております。設備投資は原則として営業キャッシュ・フローの範囲内で実施いたします。

なお、上記目標は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見通しと異なることがあります。その主な要因は以下のとおりであります。

- ・ 景気変動や急激な技術変化によるリサイクル対象の貴金属・希少金属の需要構造変化
- ・ 貴金属相場・為替相場の急激な変動による貴金属・希少金属の価格変化
- ・ 環境関連の法規制や地域社会における住民関係等の不測の変化
- ・ M & A や業務提携の進捗および成否

(4) コーポレートガバナンスについて

当社は、少数の取締役会による迅速な意思決定を行うとともに、取締役相互間で業務執行の監督を厳正に行っております。また、グループ各社を含めた内部統制システムも充実させております。

監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成されており、業務活動の全般につき、取締役会への出席等を通じて監査を実施しております。

当社は、ステークホルダーである株主の皆様や顧客・取引先をはじめ、地域社会、従業員等に対してバランスのとれた経営を行うことをコーポレートガバナンスの主要な目的と位置付け、今後もコンプライアンスの徹底をベースに公正で透明性の高い経営統治機能の向上を図ってまいります。

(5) 決算の概要

業績

わが国経済は、輸出の増加、企業収益の回復、設備投資の増加が見られ、期央から景気は緩やかな改善の傾向を示しております。その一方、雇用や個人消費への波及は未だ顕著なものとはいえず、対ドル円為替相場の変動も景気回復を阻害しかねない懸念材料となっております。

また、景況感も徐々に明るさを回復しつつあるものの、事業者一般における厳しいコスト意識は定着しております。当

社は、こうした事業環境に対応すべく、個々の取引採算性評価を厳しく行うとともに、製造経費や販売管理費の節減に努め、すべての事業領域において収益体質改善に向けた引き締めを実施しました。

当社グループの貴金属リサイクル事業領域に関して、歯科材料分野では、治療後の歯科合金の排出量や歯科技工所による貴金属の使用量は安定した推移を示し、貴金属原材料回収量は前期を上回りました。電子材料分野では、IT業界の回復を反映し、貴金属原材料回収量は前期を上回りました。宝飾加工・製造分野においても計画した貴金属原材料回収量目標を達成しました。なお、貴金属販売単価については、パラジウムの平均販売単価が前期の水準に達しなかったものの、金・銀・プラチナの平均販売単価は前期を上回りました。

当社グループの環境保全事業領域に関して、写真感光材料分野では、デジタルカメラ市場の一層の発展や現像液を使用しないドライ現像技術の普及により、写真廃液の処理量およびそこに含まれる銀の回収量は前期を下回りました。工場や試験研究機関等から排出される廃液等の無害化処理の分野では、廃試薬や廃油等を中心に取扱量を拡大しました。また、連結子会社である「株式会社三商」「株式会社大門」「株式会社エコマテリアル」の業績は堅調に推移しました。

当社グループは、埼玉工場において歯科合金スクラップ等から貴金属回収を行う設備を増強しました。また、愛媛工場において貴金属含有原料のサンプリング・分析設備を導入しました。さらに、福岡工場において液晶パネル用インジウム回収・精製のための設備を増強しました。また、中国における当社100%出資の貴金属リサイクル事業会社「上海期日浦力環境科技有限公司」が工場建設を完了し、マレーシアの子会社「ASAHI G&S SDN. BHD.」や当社の台湾支店とともに、中国や東南アジア地域等の顧客ニーズに対応するための体制整備を進めました。

その結果、当連結会計年度の連結売上高は35,897百万円、セグメント別にみると、貴金属リサイクル事業が28,219百万円、環境保全事業が7,677百万円となりました。利益面では、連結経常利益は2,228百万円、連結当期純利益は1,002百万円となりました。

財政状態

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益1,845百万円に減価償却費1,403百万円を加え、法人税等

の支払等を加減した結果、3,124百万円の増加となりました。

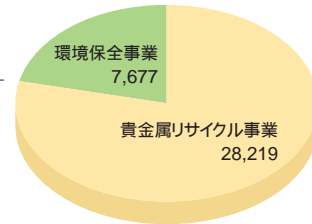
投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出2,123百万円等により、2,147百万円の減少となりました。主な設備投資は、埼玉工場の貴金属回収設備の増強、愛媛工場の貴金属含有原料のサンプリング・分析設備の導入、福岡工場のインジウム精製設備の増強等であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長短借入金の純増加額484百万円と利益配当533百万円および自己株式の取得440百万円の支出により、490百万円の減少となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は3,141百万円となりました。

セグメント別売上高(連結)

(百万円)



(6)今後の見通し

翌期以降については、企業部門を中心として景況感は徐々に回復してきているとともに、わが国の企業経営における環境意識の高まりは顕著であり、資源循環やゼロエミッションに向けての活動は年々活発になってきております。当社グループは、様々なリサイクルや廃棄物処理を業とする自らの役割の重要性を認識し、新たな事業機会の活用、新規顧客の開拓を通して、引き続き成長性の確保と収益性の向上に努めてまいります。

貴金属リサイクル事業領域においては、より安定した収益基盤を形成することを目指します。そのため、歯科材料分野で顧客に対するサービスの質を一層高めながらマーケットシェアの拡大を図ります。電子材料分野ではフラット・ディスプレイ・パネル等成長の著しい市場でのリサイクル事業拡大に努めます。宝飾加工・製造分野では個々の取引の採算性を高めるための努力を継続いたします。

環境保全事業領域においては、連結経営の拡大を通して発展を目指します。多様な産業廃棄物の適正処理が求められる市場において、アサヒプリテックグループとして顧客ニーズに幅広く対応できる「ワン・ストップ」体制を志向し、顧客

からの信頼をますます高めつつ、高付加価値の事業展開を推進してまいります。その一環として、当社は平成16年4月、IT産業等から排出される廃液を独自の生物処理により無害化する技術を有する日本ケミテック株式会社(埼玉県川口市)の株式を取得し子会社化いたしました。

(7)アサヒプリテック・グループについて

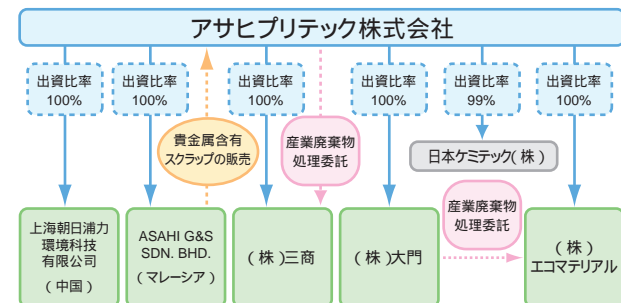
当社グループは、アサヒプリテック株式会社(当社)および子会社であります株式会社三商、株式会社大門、株式会社エコマテリアル、ASAHI G&S SDN. BHD.、上海朝日浦力環境科技有限公司により構成されており平成16年4月から日本ケミテック株式会社が、当社グループに加わりました。

子会社のうち株式会社三商は、関東圏において産業廃棄物の収集運搬および中間処理を行う会社であり、当社から産業廃棄物の中間処理を一部委託しております。

株式会社大門、株式会社エコマテリアルの2社につきましては、関東圏において食品関係の有機性廃液・汚泥の中間処理を行う会社であります。株式会社大門において微生物処理と脱水を行い、そこで発生する汚泥を株式会社エコマテリアルにおいて発酵堆肥化しております。

ASAHI G&S SDN. BHD.につきましては、当社の東南アジア進出の拠点となるマレーシア現地法人であります。東南アジア地域におきまして、電子材料分野および宝飾分野から貴金属含有スクラップを回収し、そのうち一部を当社に販売しております。

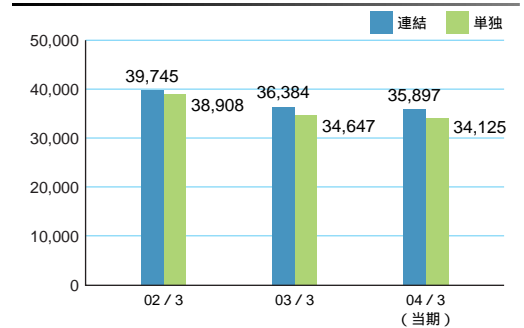
上海朝日浦力環境科技有限公司は、中国市場において貴金属スクラップの回収と貴金属の販売を目的に、平成15年3月に設立いたしました。



決算ハイライト

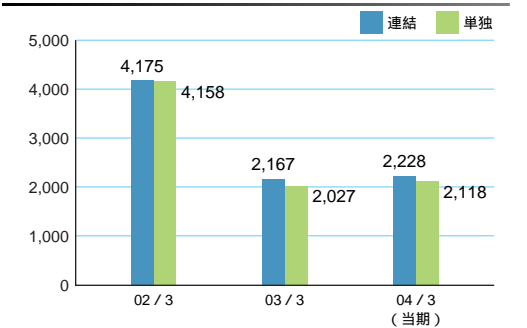
売上高

(単位:百万円)



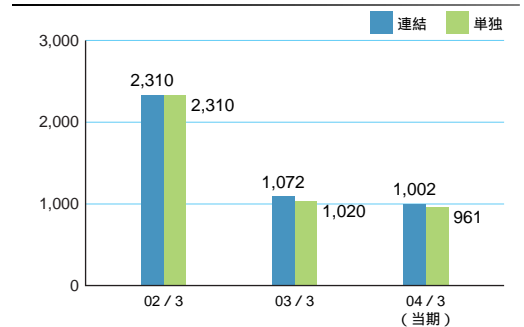
経常利益

(単位:百万円)



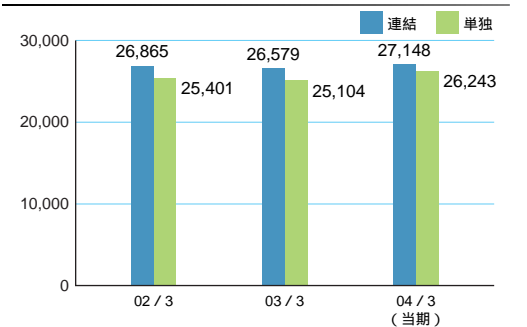
当期純利益

(単位:百万円)



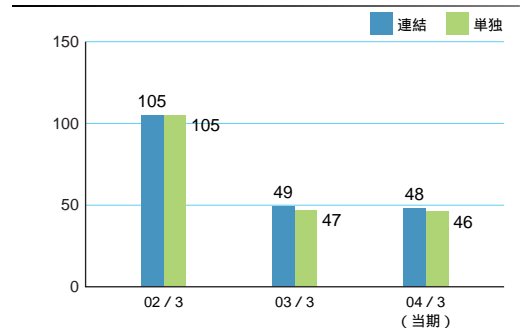
総資産

(単位:百万円)



1株当り当期純利益

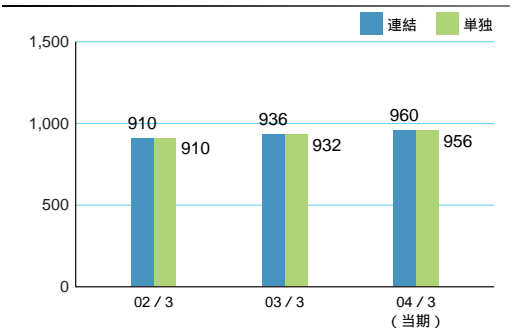
(単位:円)



02 / 3期の「1株当り当期純利益」は、2002年8月1日付で実施した株式分割(1株を500株に)を反映した修正後の数値です。

1株当り株主資本

(単位:円)



02 / 3期の「1株当り株主資本」は、2002年8月1日付で実施した株式分割(1株を500株に)を反映した修正後の数値です。

TOPICS

世界最大規模のインジウム回収工場オープン



福岡工場（福岡県古賀市）

福岡工場（福岡県古賀市）のインジウム回収・精製設備の増強工事が完了し、平成16年4月から本格稼働を始めました。処理能力が従来の倍増である月間8.5t⁺になり、インジウム回収精製工場として世界最大規模を誇ります。

希少金属のひとつであるインジウムは、テレビやパソコンのディスプレイに用いられる液晶パネルの透明電極に使用されています。電極の表面にインジウム合金を蒸着させる過程で大量のインジウム合金が未使用のまま残留するため、これを回収・精製して高純度のインゴットとして再生します。これにより、地球資源の有効利用およびIT原料の安定供給に貢献しています。

当社は、IT、触媒などの先端産業における貴金属・希少金属リサイクル需要がますます高まる中で、これらの分野での新素材に対応した研究開発を積極的に進め、今後とも循環型社会の実現に貢献していきます。

上海アサヒブリテック稼働開始



上海朝日浦力環境科技有限公司

平成15年3月に設立した当社100%出資会社「上海朝日浦力環境科技有限公司」（中国・上海市）において工場が完成し、平成16年5月から稼働を開始しました。

中国国内市場から貴金属を含む原材料を回収し、自社工場で分析・抽出・精製した貴金属製品を、再び中国国内市場に販売するビジネスを展開していきます。当面は、中国への進出が相次ぐ日系・欧米系の半導体・電子部品メーカーからの回収を計画しています。

当社は、経済のグローバル化に対応して、マレーシアの子会社ASAHI G&Sとともに、特に成長の著しいアジア地域での商圏を拡大していきます。

日本ケミテックを子会社化

当社は、平成16年4月、日本ケミテック株式会社（埼玉県川口市）を株式取得により子会社化いたしました。日本ケミテックは、生物処理による独自の無害化技術、半導体・電子部品メーカーなどの優良な顧客層、関東圏を広くカバーする収集運搬網などを有する産業廃棄物の中間処理会社です。貴金属リサイクルと環境保全の両事業領域において成長を目指す当社グループにとって、（1）環境負荷軽減型廃棄物処理のさらなる展開、（2）エレクトロニクス・IT業界における顧客チャネルの拡大、（3）廃試薬・感染性廃棄物処理の事業連携など、さまざまな相乗効果を見込んでいます。



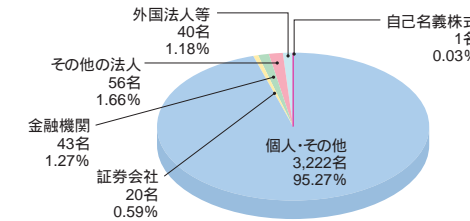
日本ケミテック（排水高度処理設備）

株式の状況

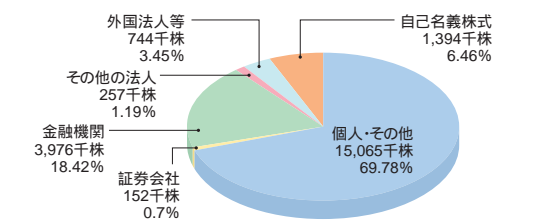
（平成16年3月31日現在）

発行済株式総数 21,590,240株
株主数 3,382名
株式分布

株主数



株式数



会社の概要

（平成16年6月17日現在）

商号 アサヒブリテック株式会社
創業 1952（昭和27）年7月
資本金 27億3,700万円
本社所在地 神戸市中央区加納町4-4-17
ニッセイ三宮ビル
従業員数 723名（平成16年3月31日現在）
事業内容 ・貴金属・希少金属資源のリサイクル
・環境保全（産業廃棄物の無害化処理）
事業所 **支社** 東京支社
研究所 テクノセンター（神戸市）
工場 仙台、埼玉、静岡、パソコンリサイクルセンター、神戸、愛媛、北九州、福岡（以上8ヶ所）
営業所 札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、静岡、名古屋、北陸、大阪、神戸、岡山、広島、四国、福岡、鹿児島、沖縄（以上19ヶ所）
海外支店 台湾（高雄市）

子会社 株式会社三商
株式会社大門
株式会社エコマテリアル
ASAHI G&S SDN. BHD.（マレーシア）
上海朝日浦力環境科技有限公司（中国）
日本ケミテック株式会社

取締役および監査役
代表取締役社長 寺山 満 春
取締役 馬 郡 喜 代 人
取締役 亀 倉 義 彦
取締役 武 内 義 勝
取締役 嶋 崎 勝 乘
常勤監査役 井 上 正 己
監査役 小 林 貞 五
監査役 徳 嶺 和 彦
監査役 有 海 澈 明

「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役